

## VISTA 6 ユーザーレポート

中京テレビ放送株式会社 様

VISTA 6



A スタジオサブのメインコンソールとして VISTA 6 を導入



中京テレビ放送株式会社  
技術局 制作技術部  
長谷川 卓也

### 地上デジタル放送開始

名古屋では一足早く 2002 年 12 月から地上デジタル放送が始まり、それに伴い中京テレビでもスタジオの更新計画がスタートしました。ここ数年来、番組制作は収録番組を制作する「B スタジオ」と、情報番組や夕方のニュースを制作する「C スタジオ」の 2 つで行ってきまされた。今回は C スタジオの更新予定だったのですが、今後予想される情報番組の枠拡大を睨み、10 年以上前に役目を終えていた「A スタジオ・サブ」を復活させることになりました。しかし、いにしへの看板番組「お笑い漫画道場」を制作していた「A スタジオ・サブ」ですが、今やまさに「埃まみれの倉庫」と化していたのです。そんな A サブに、過去の栄光なんて全く知らない入社 7 年目の私が、再び魂を込めることになりました。

### 4 台目のデジタル音声卓導入

今回の A サブは、「生放送にものすごく強く、サラウンド制作も軽々や来ちゃう音声設備」がコンセプト。「柔軟性」「汎用性」「拡張性」そして「サラウンドへの対応」を考え、デジタル卓の導入を決めました。もちろん生放送用のサブ

とすることでアナログ卓を推す意見も無いわけではありましたが、弊社には既に、B サブに「D950M2」、MA に「VISTA 7」と SSL 社「OMNI-MIX」の計 3 台のデジタル卓があり、トラブルを回避する様々な「おまじない」も熟知していたので、あまり抵抗はありませんでした。候補に挙がったいくつかのデジタル卓を比較していく中で、特に重視したのは「柔軟性」と「操作性」です。デジタルならではの「柔軟性」は、さすがに各社とも良く考えられていて、2001 年 B サブに D950M2 を導入した際、STUDER でしか出来なかった事が、どの卓でも出来るようになっていたのには驚きました。しかし「操作性」の点では VISTA が断然ピカイチ！！なんと言っても、オペレーターが座って直ぐに「EQ」「DYN」「PAN」等のフェーダー情報が一目で確認できるコンソールはこれだけ 1 台でした。これなら、変な EQ がかかっていたり、PAN が振ってあったりして、音が出てから慌てる事ありません。また、タッチパネルとロータリーエンコーダが融合した Vistonics は、リスニングポジションを全く崩すことなく操作が可能で、ミックスに集中するのも魅力でした。操作するたびにセンターコンソールに手を伸ばさなくてはいけない、従来のデジタル卓より、確実に 1 世代進んでいると思いました。そんなわけで、VISTA 6 を選択したのはとても必然的なことでした。また機種選

択する上で、音質にも徹底的にこだわったことは言うまでもありません。

### 万博と共にスタート、そして...

VISTA 6 = A サブのデビューは 2005 年 3 月 21 日、愛地球博（愛知万博）会場からの生放送の受けサブとしてでした。それ以降今日まで、朝・昼・晩と 3 本の生放送を、たった 1 回のトラブルがあっただけで無事運用しております。そのトラブルも STUDER の担当者が東京からすっ飛んで来てくれて、夕方の放送までには対処していただきました。原因は制御用 PC のマザーボードの初期不良でしたが、こういったトラブルへの対応の早さも、メーカーとして信頼できる部分ではないでしょうか。

### 導入後の感想

今年は「24 時間テレビ」も「衆議院選挙」も VISTA 6 で放送しました。そして改めてこのコンソールの柔軟性・操作性に感心しました。複雑な特番用のプロジェクトを始めから作っても、そんなに時間は掛からず、突然の設定の変更にも柔軟に対応が可能です。つまり、やりたいことがやれるコンソールです。今後、音声を取り巻く環境やニーズがどう変わっていくか分かりませんが、VISTA 6 なら仕様を変更していけるので、どんな時代が来ても対応は可能であると確信しています。